

# 建築デザインの多義性を構成する対話のプロセスにおける言い換えの戦略

Strategies of paraphrase in the process of dialogue that constitute the polysemy of architectural design

○風間 楓 (関東学院大学) \*1 酒谷 粹将 (関東学院大学) \*2

\*1 KAZAMA, Kaede, Kanto Gakuin University

1-50-1, Mitsuura Higashi, Kanazawa-ku, Yokohama, Kanagawa, 236-8501, m22J3005@kanto-gakuin. ac. jp

\*2 SAKATANI, Suisho, Kanto Gakuin University.

1-50-1, Mitsuura Higashi, Kanazawa-ku, Yokohama, Kanagawa, 236-8501, sakatani@kanto-gakuin. ac. jp

キーワード: 言い換え, 社会構成主義, フレーム, 対話によるデザイン

## 1. はじめに

建築や都市のデザインが明示的な機能や条件だけですべてが決定されることは少なく、デザイナーの他にも発注者やユーザー等の多種多様な主体がそのプロセスに関わり、そこにはデザインの様々な価値観や評価基準が不可避的に入り混じることになる。そうした複雑で曖昧な状況のもとでもデザインを推し進めるためには不測の事態にも柔軟に応える「対話によるデザイン」が重要な意味を持つ事になる。この対話の概念の背景にある思想として、「社会構成主義」と呼ばれる認識論的立場がある。社会構成主義の視点からデザインを捉える場合、そこでは様々な語り方でデザインが表現され、複数の意味や価値が重ね合わされる。

本研究ではそうしたデザインを表現する言葉に着目し、様々なデザインについての語り対話のプロセスの中でどのように展開され、そのデザインが発展していたのかを分析する。具体的にはデザイナーらの「言い換え」表現に焦点を当て、その変遷からデザインの対象の捉え方が対話のプロセスの中でどのように移り変わっていくのかを明らかにすることを目的とする。

## 2. 対話のプロセスにおける「言い換え」

### 2.1. 社会構成主義における対話の概念

社会構成主義においては、物事の意味や価値はそれ単体に対応づけて固定的に理解されるものではなく、その物事についての人々の語りや、そこに関わる人と人との関係性の中で意味や価値が構成される。こうした思想のもとで重視されるのが「対話」の概念であり、対話を重ねることで他者の言葉の背景にある価値観や思想に触れ、相互の理解が可能な世界を新たに構築することができるのである。本研究においてもこの社会構成主義の立場に立ち、対話によるデザインのプロセスの中である言葉で表現されたデザインの対象を別の言葉で表現しなおす「言い換え」表現の中で潜在するデザインの複数の意味や価値の重なりを探る。

### 2.2. 対話を通したフレームの変容

デザインの意味や価値が客観的なものではないとするならば、デザインの対象だけに焦点を当てるのではなく、複数のデザイナーが対話の中で対象をどのように捉えたのかという認識の枠組みを理解する必要があるだろう。哲学者 D. A. ショーンは物事の対象を捉える認識の仕方が様々であることを理解するために、自身の認識の枠組みを変化

させながら物事の可能性を発見する「フレーム」(frame)という概念を提唱した。フレームは対話とも関わりの深い概念であるが、対話によるデザインにおける言い換え表現に着目した分析によって、それぞれのデザイナーのフレームの移り変わりを追っていく。

### 2.3. 比喩の理論に基づく言い換えの概念的枠組み

本研究では言い換えの概念を比喩に関する理論を下敷きにした理解を試みる。広辞苑によれば比喩は“物事の説明に、これと類似したものを借りて表現すること”と定義されるが、本研究で主題とするのが、ある言葉で表現されたデザインの対象を別の言葉で表現しなおす言い換えの概念であり、比喩の概念との構造的な共通性を見出したことからその理論的枠組みの言い換えの概念への適用を試みる。

比喩の中でも代表的なものとして「メタファー」(隠喩)、「メトニミー」(換喩)「シネクドキ」(提喩)が挙げられる。メタファーは、“君は太陽だ”という表現が“君”と“太陽”に共通する要素を基にその意味が理解されるように喩えることと喩えられることの間にある「類似関係」に基づいてその表現が成立している。またメトニミーは“ハンドルを握る”という表現が、ハンドルを握った直後の“車を発進させ、運転する”という時間的に近接した直後の事象を意味するように、喩えることと喩えられることの間にある「隣接関係」に基づいてその表現が成立している。更にシネクドキは“花見”という表現が“桜の花をみる”という下位のカテゴリの事柄を指すように、喩えることと喩えられることの間にある「類-種関係」に基づいてその表現が成立している。本稿では、この3つの概念の関係性を枠組みとして、対話のプロセスの中で見出した言い換え表現を分類し、その内容について分析する。

## 3. デザイン実験の実施

### 3.1. 実験の概要

本論では、被験者らにデザインの課題に取り組んでもらい、そのプロセスの記録を分析の対象とする。

本実験では Table 1 に示すように、実験者が課題の内容を全体に示した後、被験者が一人で Step1, Step2 に取り組み、Step1 ではアイデアスケッチリスト、Step2 ではアイデアスケッチに順位を付けさせた。その後、チームで Step3 に取り組み、プレゼンシートを作成してもらった。

Figure 1 にはデザイン実験の風景を、Figure 2 には、実験の最終成果物であるプレゼンシートの例を示す。

Table 1 Outline of the experiment

被験者 examinee	設計実務経験者 6 名、3 人 1 組×2 チーム。 6 persons with practical design experience. 2 teams of 3 persons each. ※1 チームあたり 3 人×2 チーム (A・B) *3 x 3 per team (A and B) *team A (A・B・C), team B (D・E・F)
設計課題 design topics	<b>集合住宅+α</b> 与えられた敷地に対し、そこに集合住宅とその他の機能や用途を含んだ建物を設計する。その他の用途については自由に提案してもらう。 <b>Housing complex+α</b> For a given site, design a building that includes a housing complex and other functions and uses. The client is free to propose other uses.
時間 time table	Step1: アイデアスケッチ作成 (20 分)+内容の共有 (15 分) Idea sketch creation (20 min) + content sharing (15 min) Step2: 協同設計 (60 分) Collaborative design (60 mins) Step3: プレゼンシート作成 (45 分) presentation sheet preparation (45 min)
製作物 works	Step1: アイデアスケッチリスト (スケッチ、タイトル、説明、キーワードの抽出) Idea sketch list (sketch, title, description, extract keywords) Step3: プレゼンシート Presentation Sheet
記録 record	スケッチ、IC レコーダー、ビデオカメラ Sketch, IC recorder, video camera



Figure 1 Experiment scene

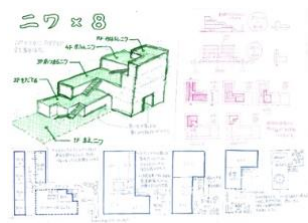


Figure 2 Presentation sheet

くるなど、パブリック要素を含んだ提案をしている。また、敷地内には、「まねニワ・そだてるニワ・あつまるニワ・かふえニワ・みはらしニワ・ひかりニワ・とおりにワ・ろじニワ」というそれぞれが特異性を持つ 8 箇所のニワを設けている。

Team B は、Figure 4 に示すプレゼンシートを最終成果物として提出した。Team B は、本来各住戸がもつ機能の一部を住人で共有し合う「大きな空間をシェアする集合住宅」というコンセプトの集合住宅を提案した。一階の水平方向に広がる大空間では、住人のためのシェアキッチンや銭湯を設け、垂直方向に伸びる二つの塔それぞれには住戸が張り付いている。また、一方の塔では本棚が連なり、もう一方の塔では銭湯の湯気で空気の循環を目指している。

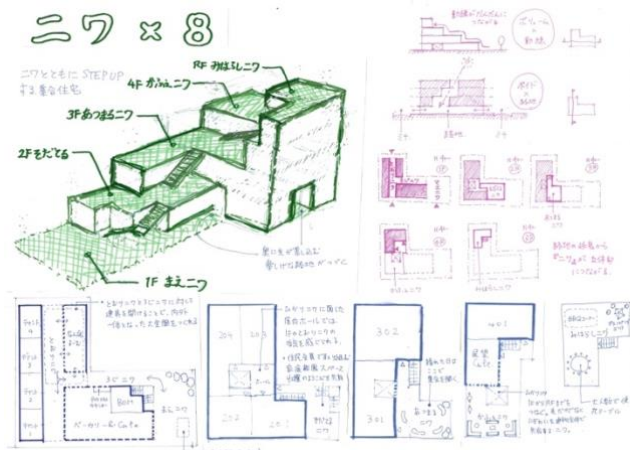


Figure 3 Presentation sheet by team A

### 3.2. 実験の手順

本実験では、3 人のデザイナーのフレームの差異を明確にするために、デザイナー個人で行う作業と対話をしながら行う作業の段階を設定した。具体的には以下に示す Step1 から Step4 の手順に沿って実験を実施した。

#### 1) Step1: 各自でアイデアスケッチの作成、内容の共有

被験者には、今回の実験の要求である「集合住宅+α」という課題に対して、各自会話をすることなく、アイデアスケッチの作成に取り組んでもらった。その後、自身が作成したアイデアスケッチを他の被験者に共有してもらった。

#### 2) Step2: アイデアスケッチをもとに議論を行う

Step1 の後、アイデアスケッチなどを参考に、3 人で最終的な提案に向けた議論を行ってもらった。

#### 3) Step3: プレゼンシートの作成

Step1 の終了後、3 人での議論を参考に提案内容を A3 のプレゼンシートにまとめてもらった。この時、文章やスケッチをどの被験者が書いたか判断できるように、指定した色のペンで作業をしてもらった。

### 3.3. 実験の結果

Team A は、Figure 3 に示すプレゼンシートを最終成果物として提出した。Team A は、「ニワとともにステップアップする集合住宅」というコンセプトのもと、敷地内に設けた路地の延長からニワを軸として、その他の用途も立体的につながるような集合住宅を考えた。それに伴い、一階と屋上にカフェを設けることで住人と地域の人の交流をつ

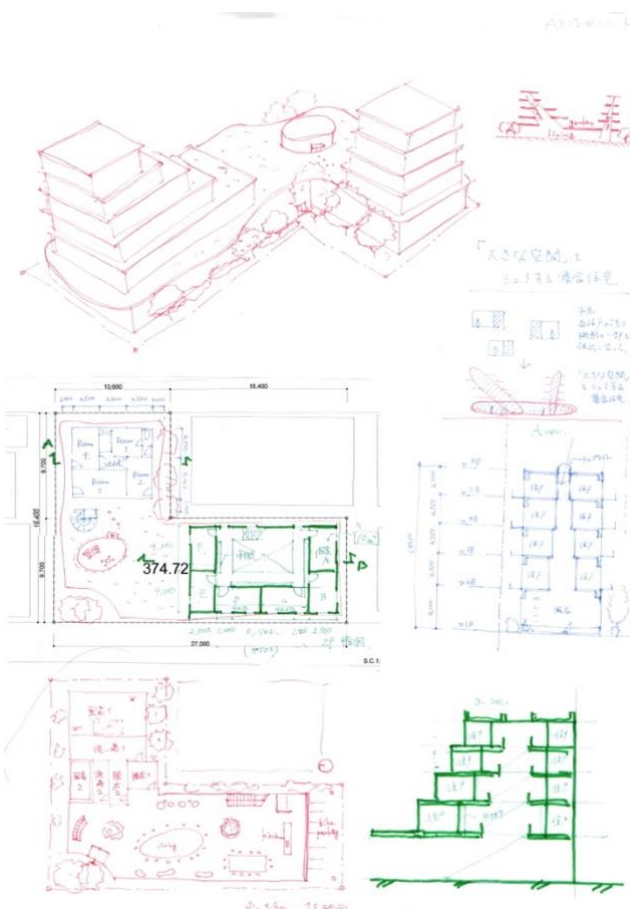


Figure 4 Presentation sheet by team B

#### 4. 言い換えによるフレームの変化

本章では、被験者らの対話のプロセスにおける「言い換え」表現に着目し、それを「類一種関係」、「類似関係」、「隣接関係」という3つの関係性に基づき、発話プロトコルを分類することで、自身や他者におけるフレームがどのように変化したのかを読み解いていく。

##### 4.1. 類一種関係に基づく言い換え

Table 2に示す場面では、デザイナーBがチームでの議論をまとめ、その中で「店舗」「ギャラリー」「カフェ」という集合住宅における機能を具体的に挙げている。この発話に対し、デザイナーCが「店舗」「ギャラリー」「カフェ」を「呼び込むためのツール」という言葉に言い換えている。ここでは、「店舗」「ギャラリー」「カフェ」よりも広い意味を示す「呼び込むためのツール」という言葉で言い換えをしているため、類一種関係に基づいているといえる。この類一種関係に基づく言い換えにより、デザイナーらに「呼び込むためのツール」であれば、「店舗」「ギ

Table 2 Paraphrasing based on cladogenicity

Speaker	Utterance content
...	...
B	結構話として共通してたのは、やっぱり道が両側にあるから抜けるとか視線が通るとか、そういうのをみんな考えたんじゃないかっていう気がしてました。 I thought that the common theme was that the two sides of the road would allow people to pass through or see each other.
B	結構それに付随して、不特定多数の人が来るから、店舗だったり、ギャラリーだったり、カフェっていう機能をみんな考えたんだろうなーと。 I think that the café, gallery, or store would have been a good idea, since an unspecified number of people would come to the café.
C	呼び込むためのツールのなね。 It's like a tool to bring people in.
B	うん。その方向性はいいと思う。 I think that direction is good.
C	うん。いいよね。 Yeah. It's good.
A	うん。共通してると思う。 I think we have that in common.
...	...

Table 3 Paraphrasing based on cladogenicity

Speaker	Utterance content
...	...
C	商業系のカフェを1個入れておくと集客になるから、 It would be a good idea to include one commercial café to attract customers,
C	それに付随して常ちゃんが言ってたアーティストのギャラリーも一角にあつたりすると寄り道として相乗効果なのでは。 If there is an artist's gallery in the corner, which Tsune-chan mentioned, it would be a synergistic effect as a side trip.
A	というか、アーティストがカフェをやっているのもあり。 Or rather, there are artists running cafes.
B	ああ！それ良いかもね！アーティスト自身がお客さんと喋って、「僕こんな絵描いてるんですよー。」みたいなね。いいじゃん！めっちゃ良いじゃん！ Oh! That might be a good idea! The artist himself talks to the audience and says, "I draw pictures like this. . ." I draw pictures like this. That sounds great! It's really good!
A	絵だけじゃ儲からないから。 I can't make money just by painting.
B	カフェとアーティストじゃなくて、カフェ×アーティストってことかな。 I don't mean cafe and artist, but cafe x artist.
A	あとあれいいですよ。僕の趣味だからあれですけど、自転車とカフェ、カフェ飲みながら自転車を選ぶんですよ。最終的に50万ぐらいの自転車買っちゃうんですけど。 Also, that's good. It's just my hobby, but bicycles and cafes. I choose a bicycle while drinking at a café. I end up buying a bicycle that costs about 500,000 yen.
B	カフェを軸にカフェというのを人とコミュニケーションを取る場として、その先にその人がやっている。 The person is doing it beyond the café as a place to communicate with people, with the café as the axis.
B	何かを伝える場になる。 It will be a place to communicate something.
...	...

ャラリー」「カフェ」以外の用途も入る可能性がある」と認識させ、設計対象を捉える新しいフレームが形成されたと考える。

また、Table 3に示す発話プロトコルでは、3名のデザイナーから「商業系のカフェ」「カフェ×アーティスト」「自転車とカフェ」など、カフェに関する提案が複数挙げられている。これらの発話に対し、デザイナーBがカフェとそれに付随する用途を、「人とコミュニケーションをとる場」と言い換えている。ここでは、「商業系のカフェ」「カフェ×アーティスト」「自転車とカフェ」よりも広い意味を示す「人とコミュニケーションをとる場」という言葉で言い換えをしているため、類一種関係に基づいているといえる。この類一種関係に基づく言い換えにより、デザイナーらにカフェに付随する具体的な用途に関しては大枠だけを捉えるように促し、対話のプロセスを進めていると考える。

##### 4.2. 類似関係に基づく言い換え

Table 4に示す場面では、デザイナーAは隣家との境界にできる空間を活かすために、ボリュームの形に関するアイデアを出したが、Figure 5に示すように、隣家との境界にできる谷間により日陰ができることを懸念している。このアイデアに対しデザイナーBが、「谷間」を「路地」という

Table 4 Paraphrasing based on similarity

Speaker	Utterance content
...	...
A	ここ何かあったっけ？ What was here?
B	うん。住宅っぽい四角がいた。 Yeah. There were residential-style squares.
A	一瞬思ったのは、こいつを活かしたいんだったら、ボリュームとしてはこうなっているじゃないですか、なので、こつちを高くして、こういう段々をつくらうと思ったんだけど、こいついなきやさ、公園だったらこうなる。こうなって、こうなるじゃないですか。 For a moment, I thought that if I wanted to make the best use of this guy, the volume would be like this. So I thought I would make this one higher and create this kind of terrace, but without this guy, the park would look like this. If it were a park, it would be like this.
A	こいつ壊したいな。 I want to destroy this guy.
B	ちょっとこれは変えれないっす。 I can't change this one for a moment.
A	ここにいる限りこうやっつたとしても谷間みたいになるのか。 As long as you're here, even if you did it this way, it would still look like a valley.
A	それはいいのか悪いのかってところけど。 I'm just wondering if that's a good thing or a bad thing.
B	その、ここがもう逆に壁扱いで、何かしらボリュームがいますよだったから、これもここに相手の敷地だけれど、ボリュームがいるから、ここが路地ですっていうこともできる。 If this area is treated as a wall, and there is some kind of volume here, we can say that this is the other party's site, but there is a volume here, so this is an alley.
A	ああ、できるね。 Yes, you can.
...	...

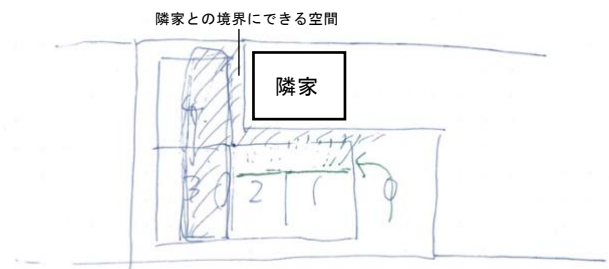


Figure Sketch of the boundary of the neighboring house



言葉に言い換えている。「谷間」と「路地」には“暗い空間”や“狭い空間”などの複数の共通点があり、ここでは、その「谷間」の特性を「路地」に投射して言い換えをしているため、類似関係に基づいているといえる。この類似関係に基づく言い換えにより、隣家との境界にできる空間への当初の懸念が肯定的なものへ変化したことが見て取れる。また、Table 4 で示す場面よりも前の段階で、チームの中で路地についての議論を既にしていたのであるが、デザイナーB が隣家との境界にできる空間を路地の話と関連付けて言い換えたことにより、デザイナーA の設計対象を捉える新しいフレームが形成され、対話のプロセスを進めていくことができたと考えられる。

Table 5 に示す場面では、Figure 6 に示すように、デザイナーらがボイド（吹き抜けのような意識的につくられた構造物がない空間）周辺に部屋を張り付けて、各部屋にはボイドの中の螺旋階段を經由してアプローチするという会話が行われている。しかし後に、デザイナーD とデザイナーE がボイド周辺に部屋を張り付けることで、狭く暗い空間になることを懸念している。この意見に対しデザイナーF が抜け（光や空気を取り入れようとする）をつくる提案をし、これに対しデザイナーD が「外部みたいなの？」という問いかけをしている。更にこれに対し、デザイナーF が「外部」を「庭」に言い換え、加えて「庭」を「理顕さんの福生」に言い換えている。ここでは、「外部」よりも狭



Figure 6 Sketch of room sticking around void

い意味を示す「庭」という言葉で言い換えをしているため、類似関係に基づいているといえる。また、「庭」と「理顕さんの福生」には“芝生”や“ランドスケープ”などの共通点があり、その「庭」の特性を「理顕さんの福生」に投射して言い換えをしているため、類似関係に基づいているといえる。このように、言い換えを繰り返して説明をすることで、対話の相手の理解を促し、対話のプロセスを進めていくことができたと考えられる。

### 4.3. 隣接関係に基づく言い換え

Table 6 に示す場面では、デザイナーA がエレベーターの有無についてチーム全体に問いかけをしている。この問いかけに対しデザイナーC が、縦動線の機能のみを持つ「エレベーター」を、縦動線だけでなくトイレや配管などの設備も含む「コア」という言葉に言い換えている。「エレベーター」という本来は縦動線の機能のみを持つ言葉に対して、「コア」という縦動線だけでなくトイレや配管などの設備も含む言葉で言い換えられているため、隣接関係に基づいているといえる。この隣接関係に基づく言い換えにより、デザイナーA とデザイナーB が、エレベーター単体で議論を進めるのではなく、ギャラリーやカフェなどの建物の用途に関連付けて話を展開していくことができたと考えられる。

Table 5 Paraphrasing based on similarity

Speaker	Utterance content
...	...
D	まあ、廊下いるもんな。廊下いる？ Well, I'm in the hallway. You need a hallway?
F	じゃああれか、その真ん中が螺旋階段経由でアプローチすればいいのか。 Then that one. Should the middle of it be approached via a spiral staircase?
D	で、スキップでいいんじゃない？ So, why not just use a skip floor?
E	中廊下、真ん中ボイド周辺部屋張り付きみたいな。 Like a middle hallway, middle void perimeter room sticking up.
...	...
D	あ、でもどっち側、こっち側が本なの？ Ah, but which side, this side is the book?
F	そっち側が本。 That side is the book.
E	でもなんか、ここにちょっと抜き欲しいよな。 But something like that, I'd like to have a little pull out here.
D	狭い。ちょっと暗い。 Small. A little dark.
F	じゃあたまにここ抜けてほしいんじゃない？ So why don't you just leave here once in a while?
E	あー。 Ah.
D	あー、外部みたいなの？ Ah. Like outside?
F	うん。庭が。 Yup. The garden.
...	...
F	理顕さんの福生みたいな。 Like Riken's fussa.
E	ああー。 Ahhh.
F	庁舎の。 of the government building.
D	ああー。そうだったっけ。 Ahhh. I don't remember that happening.
E	ぬるっと。 Lukewarm.
F	なんか2棟あって、ランドスケープがぬるっと。 There are two buildings of some kind, and the landscaping is slimy.
E	うんうんうんうん。 Mm-hmm, mm-hmm, mm-hmm.
...	...

Table 6 Paraphrasing based on proximity

Speaker	Utterance content
...	...
A	エレベーターはなし？ No EV?
C	ああ、コアね。さっきの吹き抜けに。 Oh, the core. In the stairwell.
A	全部階段で、上らせておく？ Do you want to take all the stairs and keep them up?
B	いんじゃない。4階だけだから、そうしよう。 It's only on the fourth floor, so let's do that.
B	じゃあ例えばだけど、もうエイヤーで書きちゃうけど、ギャラリーになつてるとか。 Then, for example, I'm going to write it in EYER now, but it's a gallery.
A	最悪どっか将来、カフェのどこか潰してコアにすればいい、っていう態で。 Worst-case scenario is that we can just destroy one of the cafes in the future and turn it into a core. In that manner.
C	その態でいこう。 Let's keep it that way.
...	...

また、Table 7 に示す場面では、デザイナーA とデザイナーB が隣家との境界にできる空間を活かすために、隣家の壁について話している。これに対し、デザイナーC が「壁」を「家」という言葉に言い換えている。ここでは壁を壁単体で認識するのではなく、家の中の一要素として位

置付けて言い換えをしているため、隣接関係に基づいているといえる。この言い換えにより、デザイナーAとデザイナーBが壁単体の話を押し進めるのではなく、家の中の一部として壁を認識し、会話を進めていることが見て取れる。

Table 7 Paraphrasing based on proximity

Speaker	Utterance content
...	...
A	壁を取って安藤さんみたいに、そしたら、もう。 Take the wall and be like Mr. Ando, and then, oh my God.
B	それも。アリかもね。 That, too. Maybe it's possible.
A	自分の敷地じゃん。 It's your property.
B	なにがこようが。 No matter what comes.
A	こういう壁にして... I'm going to make a wall like this...
C	まあでも、家と家に囲まれたところだって風に思えばそこは路地ですよ。 Well, if you think of it as a place surrounded by houses and houses, it is an alley.
B	まあそうだね。 Well, yes.
B	何か適当にいい感じの家が建っていることにしよう。好ましい感じの。 Let's say there is something appropriately nice about the house. A desirable feeling.
A	全部壁面緑化されてるやつね。 You know, the ones that are all wall-greened.
B	とかね。なんかいい感じになっているという前提で。 And so on. The assumption is that it's something nice.
...	...

### 5. 言い換えを通じた対話の戦略

前章では、被験者らの対話のプロセスにおける「言い換え」表現に着目し、「類一種関係」、「類似関係」、「隣接関係」に基づく言い換えによるフレームの変化について取り上げた。本章では、「言い換え」がどのようにデザインのプロセスに寄与したのかを考察し、対話のプロセスにおける戦略的な言い換えの手法を見出す。

#### 5.1. 言い換への繰り返しの説明

Table 8に示す場面では、4.2節で述べたように、デザイナーFが「外部」を「庭」、「庭」を「理顕さんの福生」という言葉に言い換えることで、対話の相手のフレームの変化を促している。デザイナーFが「外部」を「庭」と言い換えて説明し、更に「庭」を「理顕さんの福生」と言い換えて繰り返し説明をすることで、対話の相手の理解を深めている。また、ここでは「外部」を「庭」、「庭」を「理顕さんの福生」というように、ある対象を言い換える際に、それよりも理解しやすいものに言い換える傾向があると考えられる。

次のTable 9に示す場面では、4.3節で述べたように、隣家があることにより日陰ができることを懸念しているデザイナーAとデザイナーBの壁についての議論に対して、デザイナーCが「壁」を「家」という言葉に言い換えて説明をしている。更に、「隣家との境界にできる空間」を「路地」という言葉に言い換えて説明の補足をしている。このような説明のための言い換を繰り返すことで対話の相手の理解を深めさせたり、共感を呼んだりしながら、その後の議論を進めていくことができたと考えられる。

以上のことから、説明のための言い換えを繰り返すとき、ある対象に対して、それよりも理解しやすいものに言い換える傾向があると考えられる。また、説明のための言い換

えを繰り返すことにより、対話の相手の理解を深めさせたり、共感を呼んだりしながら、その後の議論を進めていくことができるのではないだろうか。

Table 8 Explanation by repetition of paraphrase

Speaker	Utterance content
...	...
E	でもなんか、ここにちょっと抜き欲しいよな。 But something like that, I'd like to have a little pull out here.
D	狭い。ちょっと暗い。 Small. A little dark.
F	じゃあたまにここ抜けてればいいんじゃない？ So why don't you just leave here once in a while?
E	あー。 Ah.
D	あー。外部みたいなの？ Ah. Like outside?
F	うん。庭が。 Yup. The garden.
...	...
F	理顕さんの福生みたいな。 Like Riken's fussa.
E	あー。 Ahhh.
F	庁舎の。 of the government building.
D	あー。そうなってたっけ。 Ahhh. I don't remember that happening.
E	ぬるっと。 Lukewarm.
F	なんか2棟あって、ランドスケープがぬるっと。 There are two buildings of some kind, and the landscaping is slimy.
E	うんうんうんうん。 Mm-hmm, mm-hmm, mm-hmm.
...	...

Table 9 Explanation by repetition of paraphrase

Speaker	Utterance content
...	...
A	壁を取って安藤さんみたいに、そしたら、もう。 Take the wall and be like Mr. Ando, and then, oh my God.
B	それも。アリかもね。 That, too. Maybe it's possible.
A	自分の敷地じゃん。 It's your property.
B	なにがこようが。 No matter what comes.
A	こういう壁にして... I'm going to make a wall like this...
C	まあでも、家と家に囲まれたところだって風に思えばそこは路地ですよ。 Well, if you think of it as a place surrounded by houses and houses, it is an alley.
B	まあそうだね。 Well, yes.
B	何か適当にいい感じの家が建っていることにしよう。好ましい感じの。 Let's say there is something appropriately nice about the house. A desirable feeling.
A	全部壁面緑化されてるやつね。 You know, the ones that are all wall-greened.
...	...

#### 5.2. 言い換えによる理解

##### 5.2.1. 言い換えによる理解の深化

Table 10に示す場面では、4.2節で述べたように、デザイナーFの抜けをつくるという提案に対し、デザイナーDが「抜けがある空間」を「外部みたいなの？」という言葉に言い換えて問いかけをしている。この言い換えにより、「抜けがある空間」という理解したい対象についてデザイナーD自身が理解を深めようとしているのが見て取れる。このように、自身の理解を深めようとするときには、ある対象についての言い換え表現を使用して問いかけを行う場面が見られた。

Table 10 Deepening Understanding through Paraphrasing

Speaker	Utterance content
...	...
D	まあ、廊下いるもんな。廊下いる？ Well, I'm in the hallway. You need a hallway?
F	じゃああれか。その真ん中が螺旋階段経由でアプローチすればいいのか。 Then that one. Should the middle of it be approached via a spiral staircase?
D	で、スキップでいいんじゃない？ So, why not just use a skip floor?
E	中廊下、真ん中ボイド周辺部屋張り付きみたいな。 Like a middle hallway, middle void perimeter room sticking up.
...	...
D	あ、でもどっち側、こっち側が本なの？ Ah, but which side, this side is the book?
F	そっち側が本。 That side is the book.
E	でもなんか、ここにちょっと抜き欲しいよな。 But something like that, I'd like to have a little pull out here.
D	狭い。ちょっと暗い。 Small. A little dark.
F	じゃあたまにここ抜けてればいいんじゃない？ So why don't you just leave here once in a while?
E	あー。 Ah.
D	あー。外部みたいな？ Ah. Like outside?
F	うん。庭が。 Yup. The garden.
...	...

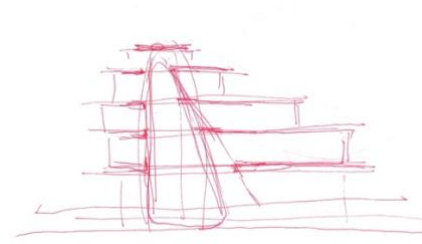


Figure 7 Sketch of space with high ceilings



Figure 8 Sketch of the well

井高の高い空間」の意味の理解を深めるために、「壺っていうか」という否定による言い換え表現を用いて問いかけをしている。このように、否定的な言葉を用いることで対象の理解を深めることもできるのではないだろうか。

### 5.3. 言い換えによる理解から生成される評価

Table 12 に示す場面では、4.1 節で述べたように、デザイナーCが「店舗」「ギャラリー」「カフェ」を「呼び込むためのツール」という言葉に言い換えている。この「呼び込むためのツール」という言葉は、「店舗」「ギャラリー」「カフェ」以外の用途も指していて、このデザイナーCの言い換えに対しデザイナーA、デザイナーBの認識が一致していたため、肯定的な評価が与えられたと考える。このように、ある対象を言い換えることで、自身や対話の相手の理解を深め、それに対して評価が与えられる場面が見受けられた。

Table 12 Evaluation born of paraphrased understanding

Speaker	Utterance content
...	...
B	不特定多数の人が来るから、店舗だったり、ギャラリーだったり、カフェっていう機能をみんな考えたんだろうなーと。 I think that the café, gallery, or store would have been a good idea, since an unspecified number of people would come to the café.
C	呼び込むためのツールのなね。 It's like a tool to bring people in.
B	うん。その方向性はいいと思う。 I think that direction is good.
C	うん。いいよね。 Yeah. It's good.
A	うん。共通してると思う。 I think we have that in common.
...	...

### 5.2.2. 否定による言い換えを通じた理解の深化

前項では、言い換えをすることで理解が深化するような事例を取り上げたが、本項では、単に言い換えをするのではなく、否定による言い換えをすることで理解が深化する事例について読み解いていく。

Table 11 に示す場面では、デザイナーDが Figure 7 に示すような天井高の高い空間を設計することで下層部が寒くなることを懸念し、この意見に対しデザイナーFが「天井高の高い空間の下層部は広い空間でなくて良い。」と提案している。これに対しデザイナーDが、「天井高の高い空間」を、Figure 8 に示すスケッチを用いて「壺っていうか、井戸みたいな？」という言葉に言い換えて問いかけをしている。この言い換えにより、「天井高の高い空間」という理解したい対象についてデザイナーD自身が理解を深めようとしているのが見て取れる。また、デザイナーDは「天

Table 11 Deepening Understanding through Paraphrasing

Speaker	Utterance content
...	...
F	すごい高い空間と、あとなんだろう。 What's left of the great high space and the rest?
E	長いとか？ Like long?
D	すごい気積があるって効率が悪いんじゃない。 It's not inefficient to have a great air product.
D	めっちゃ寒いんじゃない？下。 Isn't it very cold? Downstairs.
D	どうしようもないこと言いました。すみません。 I said something that I can't help. I'm sorry.
F	でもさ、この、ここはなんか別にデカくなくて良いかなって。 But, you know, this, this place doesn't have to be big.
D	あ、下？ Oh, down?
D	壺っていうか、井戸みたいな？ Like a jar or a well?
F	井戸みたいな。 Like a well.
E	うーん。 Hmmm.
D	なるほど。 I see.
...	...

Table 13 に示す場面では、デザイナーDが「天井高の高い空間」を「井戸みたいな？」という理解を深めるための言葉に言い換えて問いかけをすることにより、デザイナーD自身の天井高の高い空間への評価が、否定的なものから肯定的なものへ変化したと考える。一方で、デザイナーDが自身の理解のために用いた「井戸」という言い換えにより、「井戸」が持ち合わせる「直線的な形」や「暗さ」に焦点が当たり、デザイナーEやデザイナーFにネガティブな評価を与えていることが見て取れる。デザイナーD自身の理解は深まっているが、その言い換えにより対話の相手に異なる評価を誘引する可能性は否定できないであろう。

以上のことから、物事を理解することにより、その理解に対する評価が生成されていると考える。そのため、物事を評価するためには、まず理解を深めることが重要であると言えるのではないだろうか。また、一つの言い換えにおいても評価が分かれるように、設計対象に与えられる意味は多義的であるといえるのではないだろうか。

Table 13 Evaluation born of paraphrased understanding

Speaker	Utterance content
	...
F	すごい高い空間と、あとなんだろ。 What's left of the great high space and the rest?
D	すごい気積があるって効率が悪いんじゃない。 It's not inefficient to have a great air product.
E	長いとか？ Like long?
D	めっちゃ寒いんじゃない？下。 Isn't it very cold? Downstairs.
D	どうしようもないこと言いました。すみません。 I said something that I can't help. I'm sorry.
F	でもさ、この、ここはなんか別にデカくなくて良いかなって。 But, you know, this, this place doesn't have to be big.
D	あ、下？ Oh, down?
D	壺っていうか、井戸みたいな？ Like a jar or a well?
F	井戸みたいな。 Like a well.
E	うーん。 Hmmm.
D	なるほど。 I see.
D	それすごい良いかもしれないですね。なんか、 That might be great. something like that
F	井戸。 Wells.
D	井戸。 Wells.
F	暗いかもしれない。 It could be dark.
D	いや、なんかお風呂からそういう… No, something like that from the bath. …
E	なんか、羨望的すぎる感じになっていかへん？そんなことねえか。 Isn't it getting a little too money-hungry? Is that true?
D	金欲的です。かなり。 Greedy. Quite.
	...

## 6. 結論

本研究では、認識の差異が生じる状態をもとに、異なる方法での「言い換え」が対話のプロセスの中でどのように展開していたのかを明らかにすることを目的として、デザイン実験を実施し、そのプロセスを分析した。今回のデザイン実験では、「類似関係」、「隣接関係」、「類一種関係」という3つの関係性を基準にして、発話プロトコルの中から抽出した言い換え表現を分類することで、自身や他者におけるフレームがどのように変化したのかを読み解いた。また、その言い換えがどのようにデザインのプロセスに寄与したのかを考察することで、対話のプロセスにおける戦略的な言い換えの手法を見出した。

今回は二つのチームのデザイン事例を扱ったが、言い換え表現を用いてデザインを次の段階に進めようとするようなデザインプロセスのあり方は他にも多様に存在すると考える。今後も他の具体的な事例を扱いながら、言い換えによってデザインを次の段階に進めようとするデザインプロセスのあり方を明かにしていきたい。

### 参考文献

- 1) ガーゲン, K. J. :社会構成主義の理論と実践—関係性が現実をつくる, ナカニシヤ出版, 2004. 6
- 2) Schön, D. A. : *The Reflective Practitioner : How Professionals Think in Action*, Basic Books, 1983
- 3) 佐藤信夫:レトリック感覚, 講談社, 1978